

経営比較分析表（令和5年度決算）

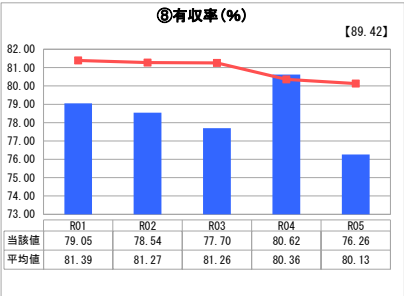
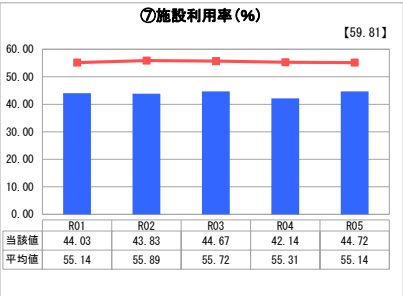
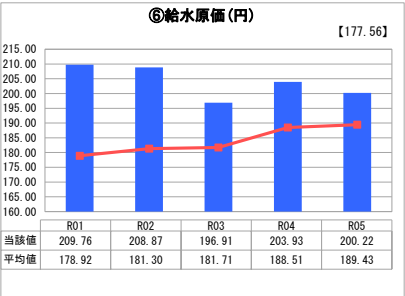
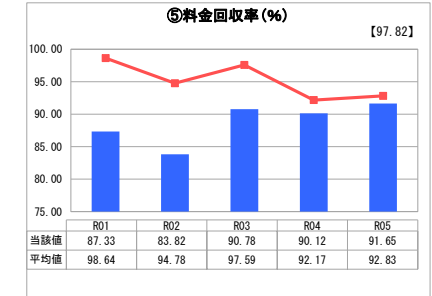
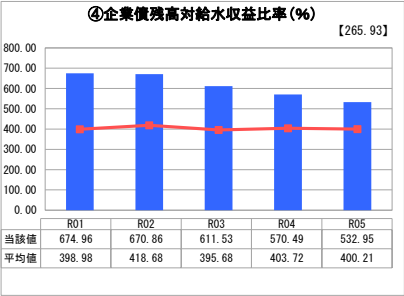
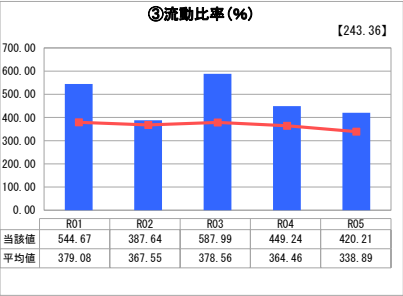
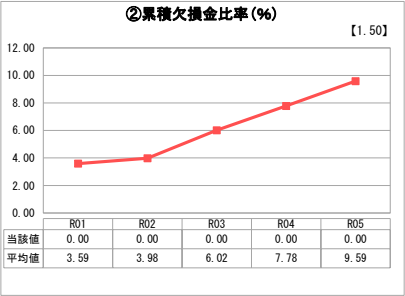
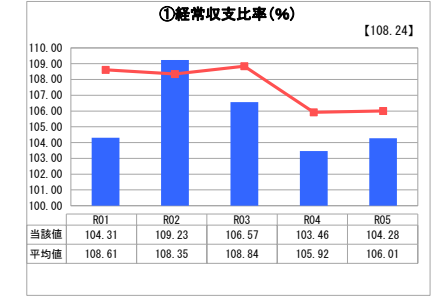
岩手県 八幡平市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	69.14	82.46	3,377	

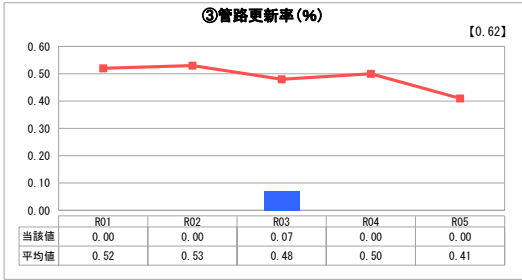
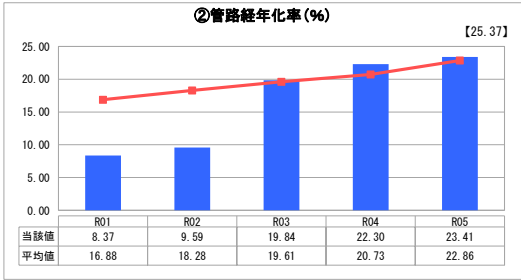
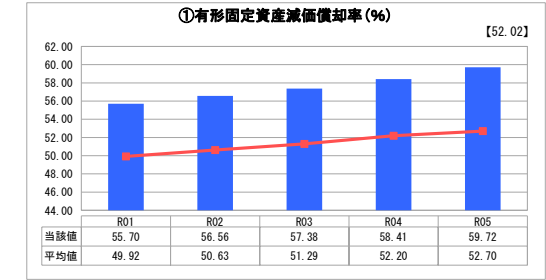
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
23,541	862.30	27.30
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
19,265	205.42	93.78

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大が下火となり、宿泊施設等による使用水量増加が期待された。結果的に感染拡大以前の水準には至らなかったものの、給水収益は増加した。また、令和4年度に施設維持管理業務を複数年契約とし、委託料を大幅に縮減したほか、動力費（電気料金）及び配水管漏水修繕費の減少などの外的要因と相まって、①経常収支比率及び⑤料金回収率は前年度より増加し、⑥給水原価は減少した。⑤料金回収率は類似団体平均値に近づいてきたものの、100%未満であることから、料金収入のみでは費用を賄えず、一般会計繰入金に依存した状態となっている。

近年において、配水管漏水が多発しており、漏水の早期発見と修繕対応に努めているものの、漏水箇所の特定に時間を要したところがあり、⑧有収率は再び減少した。市内全域において小規模施設が点在しているほか、組合水道及び井戸を使用している世帯が比較的多いことから、⑦施設利用率は50%以下と低水準のままである。

平成29年度から企業債の借入れを抑制しており、④企業債残高対給水収益比率は年々減少している。

令和5年度においては、令和4年度に策定した水道ビジョン（施設更新計画）に基づく工事に着手した。今後においても、配水管漏水の抑制及び小規模配水池の統合など施設の効率化を進めるほか、安定した事業経営の実現に向けて、経費の更なる抑制に努める。

2. 老朽化の状況について

現在、県産業廃棄物最終処分場関連の配水管布設工事を優先していることから、③管路更新率は0%の状態が続いている。老朽管更新事業は、当該工事完了後に予定している。また、令和3年度から実施している施設更新事業は、経営状況を考慮して進めていることから、資産全体としては更新が進んでおらず、①有形固定資産減価償却率が示すとおり、年々減価償却が進んでいる。

そして、耐用年数である40年を経過した配水管が急増し、昨年度に引き続き②管路経年化率は類似団体平均値を超えた。今後数年は、管路経年化率が更に急増すると見込まれることから、老朽管更新事業の着手が急務である。

今後においては、令和4年度に策定した水道ビジョン（施設更新計画）に基づき、資金（①の③流動比率）の動向を注視しながら施設更新を進める。

全体総括

1及び2で示すとおり、平成29年度からの経営努力により、企業債残高が減少し、資金量を維持（①の③流動比率）しているものの、依然として厳しい経営状況である。固定資産や企業債残高が多く、⑤料金回収率（①の⑤）が100%未満であることが事業経営に影響を及ぼしている。

また、基準外の一般会計繰入金は企業債償還金（借入返済額）の減少に伴い減少している。令和5年度には、財政シミュレーションを行い、経営戦略（改訂版）を策定した。今後においては、財政シミュレーションを検証しながら、適正水準による料金収入の確保を検討する。